

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金) 5校時

学 級 2年B組

(男子20名、女子15名、計35名)

場 所 一関市立千厩中学校2年B組教室

授業者 教諭 小野寺 浩 二

1 単元名 『4 古典に親しむ』 教材名 「音読を楽しもう 枕草子」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、「枕草子」「扇の的」「仁和寺にある法師」「漢詩の風景」の四教材で構成されており、豊かな情緒あふれる古典作品から、昔のものの見方や考え方にふれ、古典に親しむことをねらいとしている。

「枕草子」は、その書き方や清少納言の美意識に触れながら読むことができる作品である。また、「扇の的」では、当時の武士の考え方に触れることのできる作品である。さらに、「仁和寺にある法師」では、説話的な出来事に内在する人間の意識や生活上の問題について作者の考えに触れることのできる作品である。漢詩の風景においては、漢詩の中にある情景、作者の思いを想像しながら読み進めることができる。

これらのことから、古典に表われたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像しながら古典を楽しむことのできる教材であると考えられる。

(2) 生徒について

生徒は、現代文の読解力が高く、適切に読み取ることができる。しかし、読み取ったことに対して自分の考えを適切に書き表したり、話したりすることは苦手としている生徒がほとんどである。

そこで今年から、グループ内での話し合いや発表の機会を多く取り入れるようにしてきた。そのことにより、互いに考え方を交流し合うことにも慣れ、意見を言い合える状態となってきており、グループとしての意見発表ができるようになってきた。

また、古典の学習に関しては、歴史的仮名遣いや古語など普段の生活でなじみの薄い言葉で文章が書かれているため、最初から敬遠する傾向がみられる。そのため、古典に表われたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いを想像しながら古典を楽しむというような読書体験をしている生徒はほとんどいない。

(3) 指導について

一年生では古典の世界について興味や関心を高めることを目指しながら学習してきた。二年生では、多くの古典に触れることによって古文や漢文の表現から古人の心の有り様にふれ、それを自らの感性の問題として考えていきながら、古典に親しむ学習を目指している。

そこで、指導に当たっては、朗読を通して古典独特の言い回しに注目し、それに慣れさせながら、古典作品により深く親しむことができるように工夫をすること、さらに、生徒自身の考え方や作者や登場人物の考え方を比較し古典に表われたものの見方や考え方を想像させるようにする。古典の世界に描かれていることと現代を比較し、昔も今も共通することや共感することを見つけることにより、古典の世界を身近なものに感じさせるようにしていきたい。

「枕草子」においては、古典随筆作品の鋭い視点や、細やかな言葉の使い分け。端的な表現方法などの特徴を参考とし、自分なりの随筆を書くことによって、古人の思いに共感することがで

きる機会とする。これを通して、生徒個々が今後の表現活動において新たな視点・技能を習得し、活用できる力をさらにしっかりと身に付けさせていきたい。

3 国語科における「活用を意識した学習活動」のとらえ

国語科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

- (1) 語彙能力を高め、自分の考えを整理したり、まとめたりして表現できる学習活動
- (2) 互いの考えを交流したり、比較したりしながら互いに高め合う学習活動
- (3) 様々な文章や本に接し、日常生活や社会生活に生かせる学習活動

4 単元の指導目標

(1) 【国語への関心・意欲・態度】

古典の文章に関心を持ち、作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界観を味わおうとする。

(2) 【読むこと】

登場人物や作者の言葉や行動を通して、文章に表われているものの見方や考え方、思いについて想像する。(読むこと イ)

(3) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文語文・漢文(漢詩)についての知識を理解する。

5 単元の指導計画(11時間扱い)

時 間	学習内容	評価計画					「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動」の場面
		国語への関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		
2	「枕草子」の音読と読解	◆文語文に関心をもって朗読し清少納言の美意識について考える。			◆古典作品の書き方に着目しながら、作者の四季に対する美意識に触れる。	◆独特のリズム感や優れた表現、言葉遣いを理解する。	○「をかし」などの重要古語に着目する。	
1	自分の思いを随筆で表現する 【本時】	◆自分の「価値観」を紹介する文章を作る。			◆清少納言のものの見方と自分のものの見方について比べる。			★作者のものの見方について、考えてまとめる。(活用1)
1	作品を交流し自分の考えを広げる	◆発表をすること、発表を聞くことを積極的に行う。			◆随筆を交流し、自分の考えを広げる。			★作品を交流し、自分の考えを広げる。(活用2)

2	「扇的」の朗読を行い、内容を把握する	◆表現や文体の特徴をとらえながら、場面の様子や心情を豊かに思い描いて読もうとする。			◆「扇的」の内容をとらえる。	◆独特のリズム感や優れた表現、言葉遣いを理解する。	○繰り返しの音読を行う。	
1	武士の考え方について学び合いを通して自分の考えを持つ	◆表現や文体の特徴をとらえながら、情景や心情を豊かに思い描いて読もうとする。 ◆武士の心情を考えようとする。			◆武士たちの言動の意味をとらえ、武士や作者の考え方に対する自分の考えを持つ。		○「武士の言動」というポイントに絞った読解を行う。	★武士や作者の考え方についてまとめる。(活用1) ★交流し自分の考えを広げる。(活用2)
2	「仁和寺にある法師」の行動や吉田兼好の思いについてとらえ、自分の考えをまとめる	◆文語文に関心をもって音読する。 ◆繰り返し朗読とようとしている。 ◆古文の内容を理解し、自分の考えをまとめようとしている。			◆仁和寺にある法師の行動や吉田兼好の考え方をとらえ、それに対する自分の考えを持つ。	◆独特のリズム感や優れた表現、言葉遣いを理解する。	○「法師の失敗」というポイントに絞った読解を行う。	★法師の行動や吉田兼好の考え方についてまとめる。(活用1) ★交流し自分の考えを広げる。(活用2)
2	漢詩の形式や構成を知り漢詩のリズムをとらえて朗読する 三編の漢詩に描かれている情景や作者の心情をとらえる	◆繰り返し朗読とようとしている。			◆三編の漢詩に描かれている情景や作者の心情をとらえ、それに対する自分の思いを持つ。	◆漢詩の形式や構成について朗読を通して、理解する。	○漢詩の形式や訓点構成を理解する。	★漢詩に描かれている情景や作者の心情をまとめる。(活用1) ★情景や心情について発表する。(活用2)

6 本時の指導

(1) 目標

清少納言のもの見方と自分のもの見方について比べている。

(2) 本時の構想

本時の授業では、「枕草子」の作者清少納言のもの見方を参考としながら、自分なりの随筆作りを行うことで古人の考え方に触れながら、昔も今も共通することや共感することを見つける

ことにより、古典の世界を身近なものに感じさせることをねらいとしている。そのために次のような学習を展開する。

- ① 枕草子に表れているものの見方や、その構成を参考にしながら自分の価値観を随筆にまとめる。
- ② 書いた随筆をグループで交流し、それぞれのものの見方について交流し合う。
- ③ 新しい視点での「ものの見方」について感じたことをまとめる。

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒の手だて
読むこと	清少納言の優れたものの見方に気づき、その良さを自分の文章に生かそうとしている。	清少納言のものの見方と自分のものの見方について比べている。 (評価)	原文と口語訳文を比較させ、作品の内容を整理するよう促す。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)、活用(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導入 5分	1 前時の想起	1 前時の内容を確認し、各自で音読を行う。	◎前時の内容を教師が話して確認する。
	2 学習課題の設定	2 学習課題を把握する。	
	【学習課題】 現代の清少納言になろう！		
展開 42分	3 構想メモをもとにした作品づくり	3 用意した構想メモをもとに、四季それぞれの良さについて文章を書く。	◎自分であればという仮定のもと、文章を書かせる。
	4 作品交流会	4 4～5人のグループで作品を交流し合う。	◎それぞれが、どういった部分に注目しているかを確認し合うよう討議させる。
	5 作品に対する考察	5 交流会をもとに清少納言がどのようなものの見方をしていたかを考え、まとめる。	◎現代人(自分)との違い、共通点について考えさせ、机間巡視により、その点についてよく考えられている生徒に発表させる。 ■清少納言のものの見方と自分のものの見方について比べているか。 (評価)
終結 3分	6 次時の予告	6 次時の発表会の予告を行う。	

※ 本時は、一単位時間全体が習得と活用に関わる場面なので、展開の中に習得(○)、活用(★)は表示しない